

アイシンアリーナ（仮称）＜全体概要＞

プロジェクトのポイント

- アイシン精機株式会社の工場跡地に、アイシングループの収益・福利厚生施設として**民設民営でアリーナ建設を検討**
- シーホース三河のホームアリーナとして使用するとともに、アイシングループでの福利厚生イベントでの使用、収益確保のための一般への貸出も計画されており、**企業グループ全体でアリーナ整備・運営に深くコミットするプロジェクト**

施設概要

所在地／アクセス		愛知県安城市内で検討中	
面 積	敷地	約31,000㎡	延床 約25,000㎡
構 造	PC造3階建	※計画検討時の見積もり設計時点	
観 客 席	約6,500席	(固定席+移動席) ※ラウンジ席等は除く	
付帯施設	VIPルーム	有り	
	飲食・物販	有り	
	その他	浴場、プール、トレーニングルーム、屋外ビジョン等	
ホームチーム	シーホース三河（Bリーグ）		
ス ポ ー ツ 興 行	・ Bリーグ公式戦 年間35日程度		
防災機能	・ 自衛隊・消防の救助活動の支援機能、物資の集配拠点機能、避難所機能等を持つ防災支援拠点を整備予定		

施設写真



新施設イメージ



各コンセプトの関係性



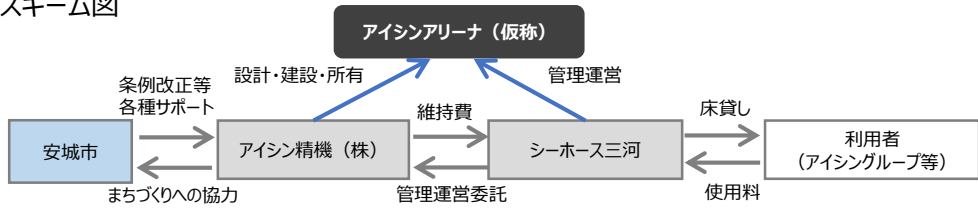
運営コンセプト

事業概要

事業スキーム	施主	アイシン精機株式会社		
	建設	アイシン開発株式会社		
	運営	シーホース三河株式会社（三井物産フォーサイト(株)等知見ある法人のサポートを受けて運用する）		
事業主体	アイシン精機株式会社／アイシン開発／シーホース三河株式会社			
所有者	土地・建物：アイシン精機株式会社			
整備方法	アイシン精機株式会社による整備			
管理・運営方法	シーホース三河を中心に三井物産グループと連携する管理・運営体制を構築予定			
事業期間	整備：2024年～2026年竣工（工期）約2.5年			
	運営：2026年～（新型コロナ流行の影響により計画期間見直し中）			
事業収支	整備費	約13,000百万円	管理運営費	約101百万円（2026）
	利用料収入	約86百万円（2026）	その他収入	約380百万円（2026）

行政の役割・支援 予定地の用途変更／近隣街づくり連携による集客 等

スキーム図



【参考ポイント①】ステークホルダー確認と検討・連携体制の整備

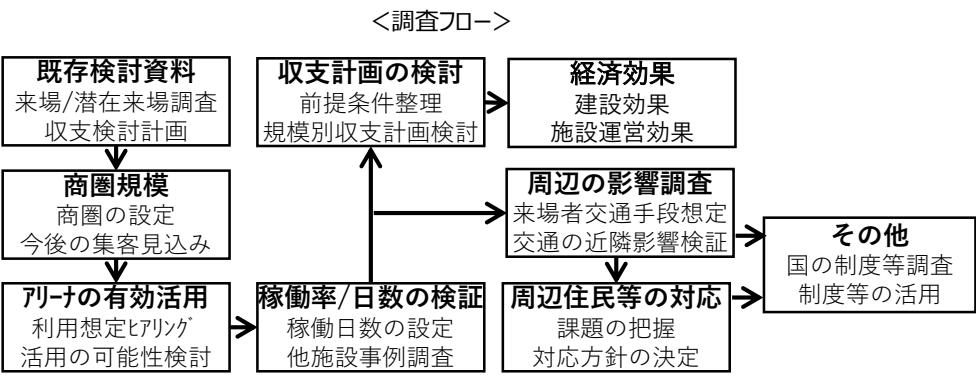
- 安城市とシーホース三河が地域活性化に関する**包括連携協定を締結**
- 推進主体であるアイシングループが、安城市（企画部、都市整備部、市民生活部、生涯学習部等）やその他ステークホルダーの意見を反映する体制を構築
- 施設設計、空間企画、飲食企画、IT等の**各分野の専門企業が加わった検討体制**となっている。
- シーホース三河内にも、営業、興行、PR、販売、施設管理の**専門家を配置**し、検討を進めている。

【新ホームアリーナ建設】建設関係者会議	
AGENDA	
1.ご挨拶	シーホース三河（株） 代表取締役社長 鈴木秀臣
2.建設計画について	シーホース三河（株）
3.アリーナと街づくり	（株）日建設 （株）キャッチネットワーク
4.周辺街づくりとの連携について	安城市
5.質疑応答	愛知学院大学 内藤先生
6.参加者発言	



【参考ポイント②】顧客・利用者の把握と情報の提供

- 来場者属性や商圈規模、アリーナの稼働率、整備・運営に伴う収支計画等の検証**が行われている。



【参考ポイント③】運営・管理に係る検討

- シーホース三河のホームアリーナとして使用とともに、アイシングループの福利厚生施設として、アイシングループの利用**（入社式での利用等）が見込まれている。
- 国際大会、ニュースポーツ大会、興行スポーツ大会、各種市民利用（地域スポーツ大会、住民交流会等）、コンベンション等の誘致を検討している。



【参考ポイント④】収益性の検証と設計等への反映

- 現段階（構想・計画段階）の検討において、地方公共団体が策定する**基本計画策定業務レベルの図面（平面図、断面図）が作成**され、**図面を基に適切な収支計画が策定**されている。
- 安城市と三河安城駅周辺の今後のあり方について協議**を進めており、災害時の帰宅困難者のアリーナへの収容や災害物資の備蓄倉庫の設置等について検討している。